町長コラム

町長室からこんにちは

No.52

一宮町長
馬淵 昌也

最近、語られることの多くなった言葉に、シビック・プライド（civic pride）というものがあります。自分の住んでいる町に対する、住民の愛着・誇りといった意味です。ヨーロッパ由来の言葉ですが、このところ、町づくり、地域づくりで最も重要なのは、住民の間に、シビック・プライドがあるかどうかだ、といわれることが増えています。この問題が語られるたびに、わたくしは、一宮町では、すでに十分にこのシビック・プライドは存在しているな、と感じます。

先祖代々一宮にお住まいの方は勿論ですが、最近引っ越してこられたいわゆる新住民の方も含めて、一宮の方は、地元愛が強い方が大変多いと感じます。優れた自然環境に対する愛着と、玉前さまやサーフィンなど、新旧の文化に対する高い評価があいまって、強い一宮に対する誇りにつながっています。

こうしたシビック・プライドは、地域を良いものとして維持し、より良くしてゆくために非常に重要です。地域に対する住民の意識・愛着が高くなければ、生活環境の悪化を防ぎ、よりよい方向に伸ばしてゆくための行政の仕事に対する住民の皆さんの協力は期待できません。新規住民の移住の動きも、シビック・プライドの高い町であればあるほど、順調になるということです。

特にシビック・プライドが強く機能するのは、危機が迫ったときです。現在、我々は新型コロナウイルス感染症という大きな脅威にみまわれていますが、これへの対応でも、シビック・プライドは重要になってきます。去る4月から5月にかけて、緊急事態宣言発令時に、町のサーフィン業組合の方々によって、感染拡大防止のため、「地元のサーファーも海に入るのを自粛しよう」という呼びかけが行われました。そして、プロのトップサーファーの方々を先頭に、長期間にわたり多くの方々がサーフィンを自粛されました。この一連の動きこそ、まさにシビック・プライドの発揮であり、こうしたことにどれだけ多くの人が参加するかが、地域を支え、よりよい方向に導く原動力となるのです。

今後、町の行政も、さらに住みよい一宮町を作ってゆくために、シビック・プライドにもとづく住民の方々の動きに連動し、協力してゆきたいと考えています。皆さんのお力添えをお願いします。